

Title	第3号発刊にあたって
Author(s)	片山, 剛
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター. 2008, 3
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/27020">https://hdl.handle.net/11094/27020</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

### 第3号発刊にあたって

やっこの「発刊にあたって」を書くところまでこぎつけました。ニューズレターを出すようになってから、毎年三月は春の訪れにも気がつかず、楽しくもシンドイ時間を過ごし、気がつくとも今年も卒業式が目前の季節となりました。

さて本号は、ページ数だけではかると、1号よりは少し多く、2号に比べると約半分となりました。2号が充実していたのは、科研グループメンバー、なかでも支援部隊である大学院生が、南京江心洲地籍図の発見で熱く燃え、現地フィールドワークの醍醐味を満喫して、それらの成果をまとめてくれたからです。今年度は、主要資料と関連資料の収集およびその分析にとくに重きをおきましたが、今年も若い方々が活躍し、本号に掲載したように、大坪君が新資料を発掘し、荒木君が既知の資料に新たな照明を当ててくれました。

二回目を迎えたワークショップも、新旧の論客をコメンテータに迎えて開催され、二日間にわたって熱気ある討論が展開されました。参加された先生方には改めて感謝の意を表し、読者の皆さまには報告者とコメンテータの力作を味読していただきたく存じます。なお、稲田清一氏の報告は、すでに太田出・佐藤仁史編『太湖流域社会の歴史学的研究』（汲古書院、2007年11月）に収録されていますので、本号にはワークショップ時の配布資料を掲載いたしました。宮嶋博史先生からは、第一回に続いて重厚なコメントと暖かい励ましをいただきましたが、文字化した原稿はご多忙のため、残念ながら頂戴できませんでした。このワークショップは小規模ですが、農業経済学や中国法を専門とする方々からも「次回はぜひ」とのお声を頂戴しており、今年も11月下旬ごろに開催の予定です。

本科研の成果としては、本号掲載分以外に、分担者・荒武達朗氏が監修した「翻訳と紹介：單維廉（シュラーマイエル）『ドイツ領膠州湾（青島）の地政資料』（一）」（『人間社会文化研究』徳島大学総合科学部、15巻、2008年3月、pp.1-50.）があります。また片山は、大阪大学中国文化フォーラム第一回セミナー「現代中国学の新たなプラットフォーム」（2008年3月9日）で、「中国における「近代」「国民」国家への志向をめぐって：土地調査事業と土地改革」を発表しました。共産党の土地改革と比較することで、国民党の土地調査事業の特質がより鮮明に浮かびあがってくるように思われます。

台湾での資料収集調査では、今年も国史館、国立中央図書館台湾分館、中央研究院の研究者・職員の方々、とくに中央研究院の范毅軍先生、巫仁恕先生、廖泫銘氏、また国立花蓮教育大学の郭俊麟氏にお世話になりました。南京では南京大学歴史系、南京市档案馆の研究者・職員の方々にお世話になりました。復旦大学の朱海濱副教授は今回もわざわざ南京に来訪し、援助してくださいました。ここでお名前をあげることができなかった方々を含め、厚く御礼を申し上げます。

2008年3月

研究代表者 片山 剛